

## 二ヶ領用水久地円筒分水

— 神奈川県川崎市 —

日本大学生物資源科学部 山 崎 高 洋

### 1. はじめに

神奈川県内で有数の工業地帯として知られ、また大きな市街地を有する川崎市に表紙に掲載された久地円筒分水は位置する。川崎市高津区北部には多摩川が流下し、その支流として平瀬川が流れている。平瀬川と交差して二ヶ領本川が流れており、交差点に円筒分水が位置する(写真-1)。

本稿では、二ヶ領用水の歴史および久地円筒分水の構造について解説する。



写真-1 二ヶ領本川(川崎市提供)

### 2. 二ヶ領用水の歴史<sup>1),2)</sup>

二ヶ領用水という名前は、川崎領と稲毛領の2つの領へ水を引いたことに由来する。徳川家康による多摩川流域の灌漑施設工事として代官小泉次大夫吉次の指揮のもと、慶長4(1599)年に二ヶ領用水の開削工事が開始され、同16(1611)年に竣工した。次大夫は駿河国富士郡で治水土木技術者として活躍し「樋代官」と呼ばれたともいう。

受益範囲は江戸時代で60カ村(川崎市域は55カ村)の約2,000haに及ぶ。江戸時代中期には中野島と宿河原の2カ所から取水された用水が、久地に設置された分量樋によって四筋(溝口堀、小杉堀、川崎堀、根方堀)に分水されるようになった。樋口は利用する田畑の面積に応じた大きさであった。

用水路は幹線水路だけでも全長32kmあるため、下流域まで十分な用水が行き渡らず水争いが頻発した。文政4(1821)年に関東を襲った干ばつは、田植えが思うようにいかないほどの状況となり、分量樋の監視に対して下流域の村民から不満が起き、名宅ほか二人宅が打ち壊される、溝口村水騒動へ発展した。

この際、村々は領主から植付け不能の水田にソバを蒔く許可が緊急で対処されるほどであった。

幕末になると横浜が開港され、外国人居留地の上水道として明治3(1870)年に二ヶ領用水から引水する横浜水道の建設が計画された。この上水道は、同6(1873)年に竣工、同19(1886)年まで利用された。

その後、明治末期から大正期にかけて工場が目まぐるしく建設され、川崎に一大工業都市が誕生し、二ヶ領用水の余剰水は昭和13(1938)年から工業用水への利用へと転換され現在に至る。工業都市の発展に伴い、人口も増加し良質な飲料水の供給が必要であったが、以前は飲料水として利用された二ヶ領用水は、都市化の影響を受け水質汚染が発生するようになった。

### 3. 久地円筒分水の構造<sup>3)</sup>

昭和11(1936)年から二ヶ領用水改良事業が開始された。これまで使用されていた分量樋は背割分土工であったため、水路内の流速分布の差により水路ごとの流量に不平等があった。この問題を解決するため、玉川右岸農業水利改良事務所長であった平賀栄治(1892~1982)の設計により二ヶ領用水久地円筒分水の建設に至り、近代的な定比分水装置として昭和16(1941)年に完成した。

円筒分水は、二ヶ領本川から2本のコンクリート導水管(内径1,500mm)を用いて平瀬川の下を通過し、サイホンの原理により円筒分水内中央の内円筒(直径8m)へ吹き上がる構造となる。さらに外円筒(直径16m)を灌漑面積に合わせた比率(川崎堀38.741m, 六ヶ村堀2.702m, 久地堀1.675m, 根方堀7.415m)に区切ることで水量を平等に分配している(図-1, 2)。補修時に撮影された写真-2から内円筒下に吹上りが確認できる。

この久地円筒分水は、平成10(1998)年6月9日に川崎市で初の国登録有形文化財として登録されている。

### 4. おわりに

川崎市は時代とともに水田が減少して、工業地帯へと発展したため、灌漑用水から上水利用さらに工業用水へと利用方法は変化した。昭和20年代の写真を見ても水路内で遊ぶ子供たちが記録されており(写真-3)、時代を問わず人々の生活の一部として水を貯え

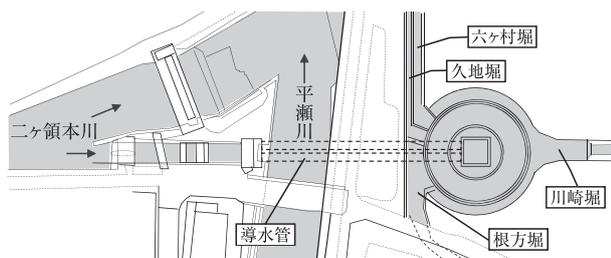


図-1 円筒分水平面図（引用文献<sup>3)</sup>の図を著者修正）

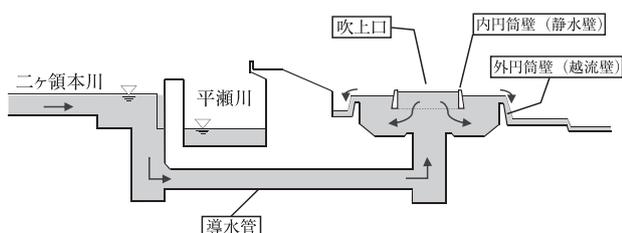


図-2 円筒分水断面図（引用文献<sup>3)</sup>の図を著者修正）



写真-2 補修時の円筒分水（高津区ふるさとアーカイブ提供）

続けているといえる。

灌漑施設としての役割は終わりを迎えつつある円筒分水であるが、今もなお近隣住民の親水空間としての役割を担っている。桜の季節になると周辺地域は花見の名所として人々が行き交い（写真-4）、高津区制40周年以降も市民活動のイベントとして二ヶ領用水ボート下りの企画（写真-5）が行われている。

**謝辞** 本稿を執筆するに当たり、写真-1, 4を川崎市建設緑政局より提供いただきました。写真-2, 3, 5を高津区役所まちづくり推進部のふるさとアーカイブ<sup>4)</sup>より提供いただきました。ここに感謝申し上げます。

#### 引用・参考文献

- 1) 川崎市市民ミュージアム：二ヶ領用水竣工400年記念二ヶ領水ものがたり（2011）
- 2) 川崎市市民ミュージアム：川崎の歴史－水と共同体－



写真-3 円筒分水で泳ぐ子供たち（高津区ふるさとアーカイブ提供）



写真-4 桜に彩られた円筒分水（川崎市提供）



写真-5 二ヶ領用水ボート下り（高津区ふるさとアーカイブ提供）

(1988)

- 3) 川崎市：二ヶ領用水久地円筒分水パンフレット（2010），<http://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000018327.html>
- 4) 川崎市高津区役所企画課：高津区ふるさとアーカイブ，<http://takatsufurusato.sakura.ne.jp/>